

令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	36	学校名	仙台市立荒巻小学校	校長名	佐藤 淑子
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ

第4学年総合的な学習の時間、わたしたちにもできるSDGs



2 取組の紹介

①ごみ処理の学習と水の学習から地域の環境に視野を広げる

地域のゲストティーチャーと一緒に地域を流れる梅田川を遡り水質調査を行いました。

環境について調べていく過程でSDGsという言葉に出会い、社会科の環境に関する学習から視野を広げ、八木山動物公園や「みやぎ・環境とくらしネットワーク MELON」、東北電力の方などの話を聞き、自分たちの問題だという意識が高まりました。



②動物と人間が共存する環境の大切さに気付く

八木山動物公園では、動物たちを目の前にしてアフリカゾウとホッキョクグマ、里山の動物たちの話を聞き、地球温暖化や人間の身勝手な活動、里山の大切さについて学びました。仙台の身近な所に里山があることを子供たちは知り、梅田川の環境と関連付け、地域の環境を守りたいという思いを強めました。地球温暖化について調べ、自分たちが何気なくやっているごみのポイ捨てや、ごみの分別が関係していることに気付いていきました。

③電気エネルギーと地球の未来

地球温暖化について調べる過程で、動物、ごみ、水の他にエネルギーも関係していることに気づき、東北電力の協力を得て、電気がどこから送られてくるのかを調べました。人間の生活になくしてはならない電気をつくる際にも温暖化が関係しており、環境に気を付けて生み出す工夫がされ、処分についても考えられていることに気付くことができました。

④環境保全を訴える活動

一人だけで環境保全の取組を行っても解決できない大きな問題であることに気づき、身の回りの人や校内に向けて環境保全を訴える活動を行いました。一人一人がSDGsの17の目標に関することを選び、プレゼンを作成し、学習成果発表会と昼の放送で伝えました。



⑤サステナブルな商品や取組を探す

「～は、やめよう」のようなマイナスなイメージばかりを伝え、誰かのせいになっているのではサステナブル「持続可能な社会」は目指せないことが分かってきました。地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活を続けていける社会に向けて、自分たちができることを探しました。サステナブル商品を知り、選ぶことや企業の取組を調べ紹介し合いました。また、多くの人にサステナブルな商品や取組を知らせ協力してもらうためにCM作りをし、校内放送でもCMを流しました。

3 取組の成果（児童生徒の変容）

手洗い時に水をこまめに止めたり、ごみの分別をきちんとしたりするようになりました。カップやストローなどプラスチック製品を使わないように心掛けるようになりました。また、進んで公園のごみ拾いをする児童が増えました。教室内で、「サステナブルではない」「SDGsじゃないね」という言葉が聞かれるようになり、環境への意識の高まりが感じられました。